

## 【静岡県牧之原市】【牧之原市菊川市学校組合】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

現代社会は AI 技術とグローバル化の進展、人口減少、そして人生 100 年時代の到来によって、大きな変革期を迎えている。このような社会の変化に柔軟に適応し、新しいアイデアを創出する能力や自立した社会生活を営む力を育てることが重要だと考えている。

本市、組合では、文部科学省の GIGA スクール構想に基づき、1 人 1 台の端末を利活用した ICT 環境を整備し、未来を担う人材の育成を目指している。

本市、組合では、義務教育 9 年間にわたり「次代を切り拓く力」を育むために、体系的な学びを推進している。この ICT 環境を活用し、児童生徒は主体的に学び、生きた知識や実用的な技能を身に付けることを目指す。「対話」「体験」「協働」を重視した「学びの循環」を構築し、学んだことを社会の中で実践できることをめざしている。

#### 2 GIGA 第1期の総括

本市、組合では、GIGA 第 1 期以前から平成 28 年度より、新時代を生きる子どもたちの資質・能力を育むため、ICT 機器の利活用を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善に取り組んできた。令和 2 年度末には、牧之原市内の小中学校において 1 人 1 台端末と大容量高速ネットワークの整備が完了し、ICT 支援員が月 2 回程度配置され、技術面での支援を行っている。

さらに、ICT 教育を推進できる人材の育成が重要であるとの認識から、ICT 機器の利活用による授業改善の推進役としての ICT 研究員を対象とした研修を年 4 回実施している。ICT 研究員は、1 人 1 台端末の利活用や授業実践の成果を共有し、学習指導要領に求められる情報活用能力を教科横断的に付けるための研究を行っている。その成果として、『牧之原市版児童生徒に付けたい情報活用能力 力の形成マップ【スキル版】』が作成され、授業や教育活動で意図的な育成が行われている。

令和 6 年度に実施された全国学力・学習状況調査の児童生徒対象の質問紙調査では、「ICT 機器をどの程度活用しましたか」という問いに対して、「毎日」「週 3 日以上」と回答した児童の割合が 72.1% (全国平均 59.5%)、生徒の割合が 77.0% (全国平均 64.4%) と、全国平均を上回る結果が得られている。これは、ICT の活用が進んでいることの表れである。一方で、自分のペースで理解しながら学習を進める場面や、自らの考えや意見をわかりやすく伝えることにおいては、全国平均に比べ低い傾向が見られ、充実を図る必要がある。この課題解決に向けて、自ら課題を設定し、自分が調べたことや考えたことが伝わるように工夫してまとめ、表現する活動を

意図的に取り入れる中で、子どもたちが目的や場面に合わせて ICT を効果的に活用する力を育成します。

### 3 1人1台端末の利活用方策

GIGA 第2期に向け、端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。また、本市では、「次代を切り拓く力」を育成する教育を、一人1台端末を活用していくことで、より一層進めていく。そのためには、学習の基盤となる「情報活用能力」の育成が重要と考え、以下の2点を重点とし、一人1台端末の利活用を進めていく。

1点目は「情報活用能力推進リーダーの育成」である。

本市、組合では、教育活動の広範囲でICT機器の利活用が推進されるために、「いい授業とは？」を追究する過程においては研修主任が、「情報モラル教育」においては生徒指導担当が、「働き方改革に向けた校務業務のDX化においては教頭先生や教務主任が、旗振り役となり、それぞれの立場で効果的な活用を進めていく。

その上で ICT 研究員を「情報活用能力推進リーダー」とし、各分掌と連携して、校内の具体的な実践を情報活用能力の「窓口」から価値付け、児童生徒の情報活用能力の底上げを推進できるようにする。

2点目は「AIの活用」である。

本市、組合では、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」を踏まえ、「教育分野に特化した生成AIサービス」を令和7年度から小学校5・6年生及び中学生を対象に導入し、「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高めたいと考えている。

また、「AIドリル」の導入については、「個別の学習パターンに合わせた個別最適化された問題を提供する」、「学習進捗に応じて動的にフィードバックが調整され、個人の能力に最適化された指導ができる」などの特徴を生かし、「その授業で習ったことの定着を図る場面」や「単元の理解度を確かめ、個に応じた問題演習をする場面」などで活用することにより、知識や技能の習得の効率化を図りたいと考えている。

本市、組合では、「情報活用能力推進リーダーの育成」と「AIの活用」によって、1人1台端末を利活用がより一層進み、【知識・技能】の習得が、家庭学習との連携も含め、効率化され、授業において、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】の育成に焦点化された、みんなが集まる学校ならではの授業が展開されるよう、授業改善を進めていきたい。

(1) 「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」

上段：牧之原市

下段：牧之原市菊川市学校組合

KPI	目標値 (目標年度)
毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	100% (R6) 100% (R6)
情報通信技術支援員 (ICT 支援員) の配置	現状維持 ※4校/人 (R6) ※2校/人 (R6)
1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100% (R6) 100% (R6)
デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100% (R10) 100% (R10)

(2) 個別最適・協働的な学びの充実に向けた目標

KPI	目標値 (目標年度)
児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100% (R6) 100% (R6)
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8) 80% (R8)
教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8) 80% (R8)
児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8) 80% (R8)
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	80% (R8) 80% (R8)

(3) 「学びの保障に向けた目標」

KPI	目標値 (目標年度)
希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R8) 100% (R8)
希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100% (R8) 100% (R8)

外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R8) 100% (R8)
障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100% (R8) 100% (R8)